

協力隊を

む

最近あちこちで聞く「地域おこし協力隊」。

むらで働くために、都会からやってくる外部人材だ。

初めから「できる人」ではないけれど、むらの課題とマッチすれば、

小さな経済が生まれたり、誇りを取り戻すきっかけにはできる。

上手に呼んで、受け入れて、地域の元気に育てたい。

岡山県瀬戸内市裳掛地区では地元協議会が協力隊や大学生とともに農地を再生。左から協力隊の菊地友和さん、協議会前会長で農家の山田侃さん、昨年末に1ターンで移住し、再生地を借りている山崎裕史さん、佳沙さん
写真＝大村嘉正



地域おこし むらにとりこ



地域おこし協力隊は2009年にスタートした総務省の取り組み。地方自治体が都市から人を受け入れて農林漁業などの支援を委嘱する。任期は1～3年。報酬は1人年間200万円。13年度は約1000人、318の自治体で実施。